

## 令和8年4月宝塚市長定例記者会見 議事録

日 時 4月20日(月) 11時00分から12時00分まで 場 所 特別会議室

出席者(市) 市長、副市長、企画経営部長、企画経営部次長(総括担当、制作推進担当及び秘書・広報担当)、企画経営部政策推進担当課長、産業文化部次長観光文化振興担当、観光にぎわい課長

出席者(ゲスト) 株式会社若水、エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社、株式会社地球 Labo、有限会社クルーズ

出席者(記者クラブ) 朝日新聞社、神戸新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、産経新聞社

### 1 発表案件

#### (1) 「生ごみ」が宝塚のシンボルを彩る花に！

地域でつなぐ「Hanakuru 宝来橋資源循環プロジェクト」が始動

(企画政策課)

#### 【質疑】

(記者) 今回のプロジェクトで使用するコンポストは、どこに設置するのでしょうか。

(ゲスト) 大きく分けて2つの方法があります。一つは、各家庭でコンポストに取り組みでいただき、お花の植え替え時期に合わせて定期的に堆肥をお持ちいただく方法です。もう一つは、ホテル若水様の敷地内において、バラ風呂で使用された花を市内でコンポスト化していく取り組みです。これらについても、植え替えの際に定期的に活用していく予定です。

(記者) 現在も宝来橋の一部では花がきれいに咲いていますが、5月10日のイベントでは、現在花がない場所に新しく植えるというイメージでしょうか。また、イベントでは宝来橋の両岸すべてに花が植えられるのでしょうか。

(ゲスト) 現在花がない場所や、季節的に終わりを迎えて弱ってしまった箇所への植え替えを計画しています。具体的には、ホテル若水様から約20mから25mほどの区間に、お花を植えていきます。

(記者) 先ほど話題に出た枯れたツツジについてですが、見た目があまり良くない状況で、市議会でも問題になったかと思います。ツツジから別の花へ変えていく構想はありますか。

(ゲスト) まだ生きているツツジに関してはそのまま残し、その間のスペースに花を植えています。

(記者) イベントは、誰でも参加できるのでしょうか。

(ゲスト) はい。本日以降、看板の設置や SNS などを通じて取り組みの内容を告知し、地域の方々にも広く呼びかけをしていきます。特に 5 月以降の水やりなど、地域の方々を巻き込みながらお花の管理を進めていきたいと考えています。

また、3 月からエイチ・ツー・オー リテイリング様との取り組みとして「コンポストチャレンジ」がスタートしており、そこに参加された市民の方々の堆肥が出来上がってきますので、当日はその堆肥も活用させていただきます。

(記者) 現在の花の種類は何種類でしょうか。また、5 月にはどのような花が植えられる予定ですか。

(ゲスト) 現在咲いているのは「パンジー」や「レンゲ」になります。5 月以降については、ホテル若水様からミツバチに関するご要望もいただいておりますので、一つはラベンダーを検討しています。ラベンダーであれば、毎回植え替えをせずとも継続的に育てていくことが可能です。

そのほか、夏に向けては「セイヨウニンジンボク」や「ジニア」などを検討しています。

(記者) 費用負担について伺います。こうした事業には当然費用がかかりますが、宝塚市が負担するのでしょうか。

(担当) 今回のプロジェクトメンバーで実行団体を結成していただき、そこに対して市からお花の提供などを行うことが可能です。そのような形で補助をさせていただく仕組みとなっています。

(記者) 橋全体の補修について伺います。宝来橋は「S 字橋」で曲線タイルが使われていますが、剥がれた箇所が黒いアスファルトで埋められており、目立つ状況です。せっかくお花で綺麗になっても路面がそのままだと残念ですが、市として補修のお考えはありますか。

(担当) 橋自体は兵庫県の所有物となります。県が将来的には改修を行うと聞いておりますが、現時点で近々に路面の全面修理を行うという予定は伺っていません。

(記者) 県の管理とはいえ、歩いていると黒い補修跡は非常に目立ちます。市として、県へ積極的に補修の働きかけを行う予定はありますか。

(担当) 県も将来的な改修は予定しているとのことですので、おそらくそのタイミングでまとめて改修されることになるかと思います。現時点で具体的な時期まではお答えできませんが、将来的には宝塚大橋のような形になるかと考えております。

(次頁あり)

## (2) 宝塚市をマンガ・アニメの聖地に 手塚治虫生誕 100 年に向け協議会を設立します

(観光にぎわい課)

### 【質疑】

(記者) ドラマ誘致について、長編ドラマとのことですが、具体的に NHK の朝ドラや民放の作品など、具体的なイメージはありますか。

(担当) 基本的には、当初は NHK の連続テレビ小説(朝ドラ)の誘致も視野に入れて活動を開始しておりました。しかし、朝ドラにはヒロインの存在など特定の条件もございます。今回は協議会を立ち上げて取り組むため、NHK に限定せず、広く民放各局のドラマ誘致にもつなげたいと考え、このような表現としております。

(記者) 広い意味で、テレビ局だけでなく映画会社やラジオドラマなども含めて検討されているということでしょうか。

(担当) はい。メインはドラマですのでテレビ局が中心になるかと思いますが、映画やラジオドラマなど、多様な媒体での展開につながればと考えています。

(記者) 署名活動が本日スタートしますが、今後どのように市民へ署名を求めていく予定ですか。駅前に受付を設けるなど、具体的な手法は決まっていますか。

(担当) 具体的な手法は今後協議会で話し合っていきますが、手書きの署名に加え、オンラインやデジタル署名も活用する予定です。

(記者) 対象は市民に限定されますか。また、人数の目標や期間の設定はありますか。

(担当) 宝塚市をロケ地とした手塚治虫作品のドラマ化誘致ですので、市民が中心にはなりますが、対象は特に限定しません。目標については、事務局としては高く「100 万筆」を掲げたいと考えています。期間については現時点では設定しておりませんが、これも協議会で決定していく予定です。

(記者) 「花のみち」から文化芸術センター周辺を「聖地化」していきたいとのことですが、具体的に銅像を建てるなどの計画があるのでしょうか。

(担当) 現時点では、何かを建設するというよりは、この取り組みを通じて文化の発信拠点にしたいという思いがございます。観光・文化・産業を結びつけるプラットフォームを構築し、人が自然と集まる場を目指しています。いわゆるサブカルチャー的な「聖地巡礼」に留まらず、文化を軸とした交流の場にしたいと考えております。

もちろん、事業の中でデザインマンホールや看板、フラッグ、フォトスポットの設置などは案として出てくるかと思えます。著作権の関係もございますので、そ

れらを整理しながら協議会で具体策を検討してまいります。

(記者) 手塚作品のドラマ化は、これまで例がなかったのでしょうか。

(担当) 宝塚市内を舞台としたロケ地としては、これまでに多くはありません。どのような形であれ、宝塚を舞台に取り上げていただきたいと考えています。

(記者) 現状、手塚治虫記念館の入館者数やインバウンドの状況はいかがでしょう。

(担当) 現状、年間の入館者数は約8万人弱で、そのうちインバウンドの方は約1割程度です。決して多くはありませんので、まずは10万人を目標に掲げ、日本国内のみならず世界中へ手塚先生の魅力をPRしていきたいと考えています。

(記者) 協議会の構成団体は、今後増やしていく予定ですか。

(担当) 例えば大阪だったりとか構成団体は、どんどん広げていくべきだと考えています。当日は、手塚先生の生誕地である豊中市からもお越しいただく予定です。

(記者) 4月25日のセレモニーについて、撮影のポイント(絵になる場面)はありますか。

(担当) 市長の署名シーンや、出席者全員での記念写真などを想定しています。観光大使「サファイア」が参加するほか、記念写真の背景も、屋内ではなく記念館前の「火の鳥」の像の前で行うなど工夫する予定です。

(記者) ドラマ誘致のターゲットについて伺います。例えばNHKを優先するなど、具体的な交渉先は考えていますか。

(担当) 正直に申し上げますと、すでに職員がNHKにヒアリングにしたところ、朝ドラなどの枠は、かなり先まで埋まっているのが実情です。そのため、朝ドラに限らず他局の長編ドラマやラジオドラマなども含めて可能性を探っていきます。署名を集める手法は他の自治体でNHKのドラマ誘致を行う際に一般的ですので、それを参考に進めてまいります。

(記者) 市長に伺います。医師でもある市長が、個人的に好きな手塚作品や思い出のシーンはありますか。

(市長) やはり『ブラックジャック』ですね。医師としての知識を持って読むと、非常に深く共感する部分が多いです。手塚先生は漫画を「文化」のレベルまで引き上げられました。そこには命や医療といった大きな文学的テーマが流れています。印象的なシーンとしては、大阪大学医学部の法医学教室にある「刺青(彫り物)の標本」が漫画に登場するのですが、実物を見たことがある私にとっては、非常に焼き付いている場面です。

(記者) ドラマ誘致に関連して、地域のフィルムコミッションなどと連携する予定はありますか。

(担当) はい、そのような広がりを期待しています。まずは「ドラマ誘致をしたい」と手を挙げ、興味を持ってくださるメディア関係者やプロダクションとの関係を築いていきたいと考えています。

(記者) ドラマの放送時期の目標はありますか。

(担当) 生誕 100 年である 2028 年、あるいはその前年の 2027 年頃の放送が理想です。ドラマ化は、100 年に向けた活動を盛り上げる大きな「ブースター」になると考えています。ただ、2028 年に限定せず、それをきっかけに多くの方に周知していただける機会を継続的に作っていければと考えています。

(次頁あり)

## 2 その他

### 【質疑】

(記者) 先ほどの手塚治虫氏に関する事業について伺います。一般的に、こうした協議会には「本丸」である手塚プロダクションが構成メンバーに入っている方が、物事が円滑に進むように思います。あえて構成メンバーから外し、許諾や対価の支払いといった通常取引関係として連携されるのは、どのような意図があるのでしょうか。

(市長) 手塚プロダクション側も生誕 100 周年に向けた独自のお考えをお持ちです。手塚治虫記念館がある本市とは非常に特別な関係にあります。数回にわたる協議の結果、関係を切り離すのではなく、それぞれが効果的なキャンペーンを展開する手法をとることで合意しました。

事務局に直接入っていただくよりも、我々が近隣市を含めたプロジェクトのプラットフォームを用意し、手塚プロダクションとの連絡調整を本市が担う形が、双方にとって最善であると判断いたしました。

(記者) テレビドラマの誘致などにしても、協議会の中に手塚プロダクションがいれば「共に要望している」という姿勢が明確になり、話が早いのではないのでしょうか。地元市が署名を集めて要望し、改めて手塚プロダクションの意向を確認する形では、ワンクッション置くことになり、距離感があるようにも見受けられます。

(市長) それは手塚プロダクションとしてのやり方、考え方もあるのだと受け止めております。

(記者) 市長就任からちょうど 1 年を迎えられました。率直なご感想をお聞かせください。

(市長) 感慨深い 1 年でした。長いようで短く、短いようで長い 1 年だったと感じています。就任当時にお話したことの中で、進んだこともあれば、なかなか着手できなかったこともあります。

私自身としては、特に行財政改革において、積年の課題であった事項が一定進展したことは成果であると考えています。相対的に見て、前向きな 1 年であったと捉えています。

(次頁あり)

(記者) 「なかなか進まなかったこと」とは、具体的にどのようなことでしょうか。

(市長) 就任前から認識はしていましたが、宝塚市の財政的課題は数字で見る以上に根が深いものでした。そちらに注力する必要があったため、本来やりたかった事業への着手に時間がかかったと感じています。

特に病院や水道などの公営企業改革、土地開発公社の問題などは、着手までに時間を要しました。その背景には、単に市の課題が深刻であるだけでなく、急速な物価高騰や円安、金利上昇といった厳しい経済環境があったことも大きな要因です。

(記者) 2年目はどのようなことに取り組まれますか。

(市長) 1年目はわかりやすい「積年の課題」に取り組みましたが、2年目はもう少し個別の事業レベル（メゾ・マイクロレベル）での改革に手を付けていきたいと考えています。

具体的には、学童保育や幼児教育のあり方、教育現場での不登校対策や特別支援教育、あるいは公園や道路といったインフラのあり方など、それぞれの事業の持続可能性を踏まえた改編を進めていく予定です。

(記者) 三浦璃来選手への市民栄誉賞について、贈呈の状況はいかがでしょう。

(市長) 贈呈はこれからで、現在は調整中です。本市としては郵送ではなく、できれば直接手渡しをしたいと考えております。ご本人にお会いする機会を調整するか、あるいはご家族を通じて、あるいは他市と連携する形など、最善の方法を検討しています。

(記者) 副賞はありますか。

(市長) 記念品の贈呈を検討中です。

(記者) 18歳以下の子ども医療費助成について、窓口負担（1回600円、月2回まで）を導入したことに対する市民の反応はいかがでしょう。

(市長) 子育て世帯の方からは、負担増を懸念するお声もいただいております。一方で「これまでの『完全無償』は必ずしも正しくない」といった肯定的なご意見もいただいております。

対話の場などでは、保護者の方の不安に対し、LINE等を活用したオンラインの小児科相談サービスなどの代替手段も紹介しており、一定のご理解をいただいている部分もあります。また、他の自治体からは制度変更の理由や、適正受診に関する技術的な問い合わせも多く寄せられています。

以上